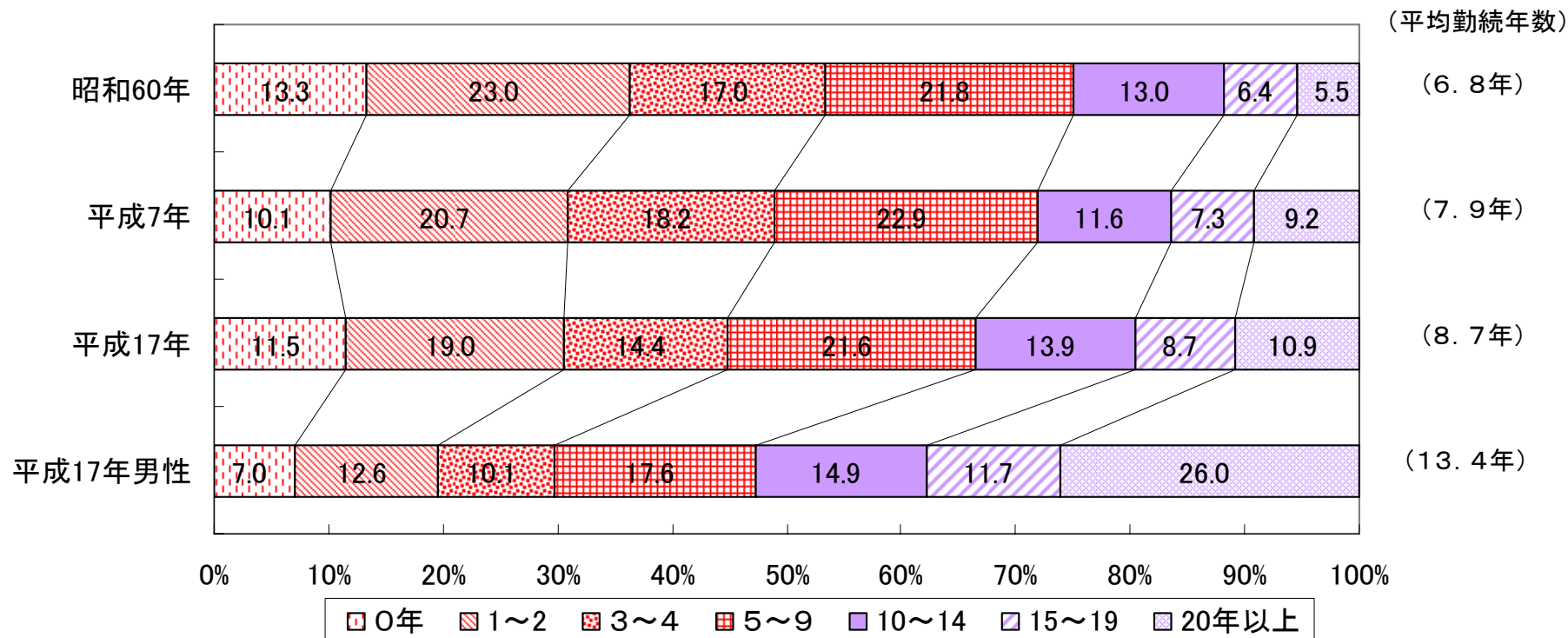


女性の就業継続の現状と課題

勤続年数階級別女性労働者構成比の推移

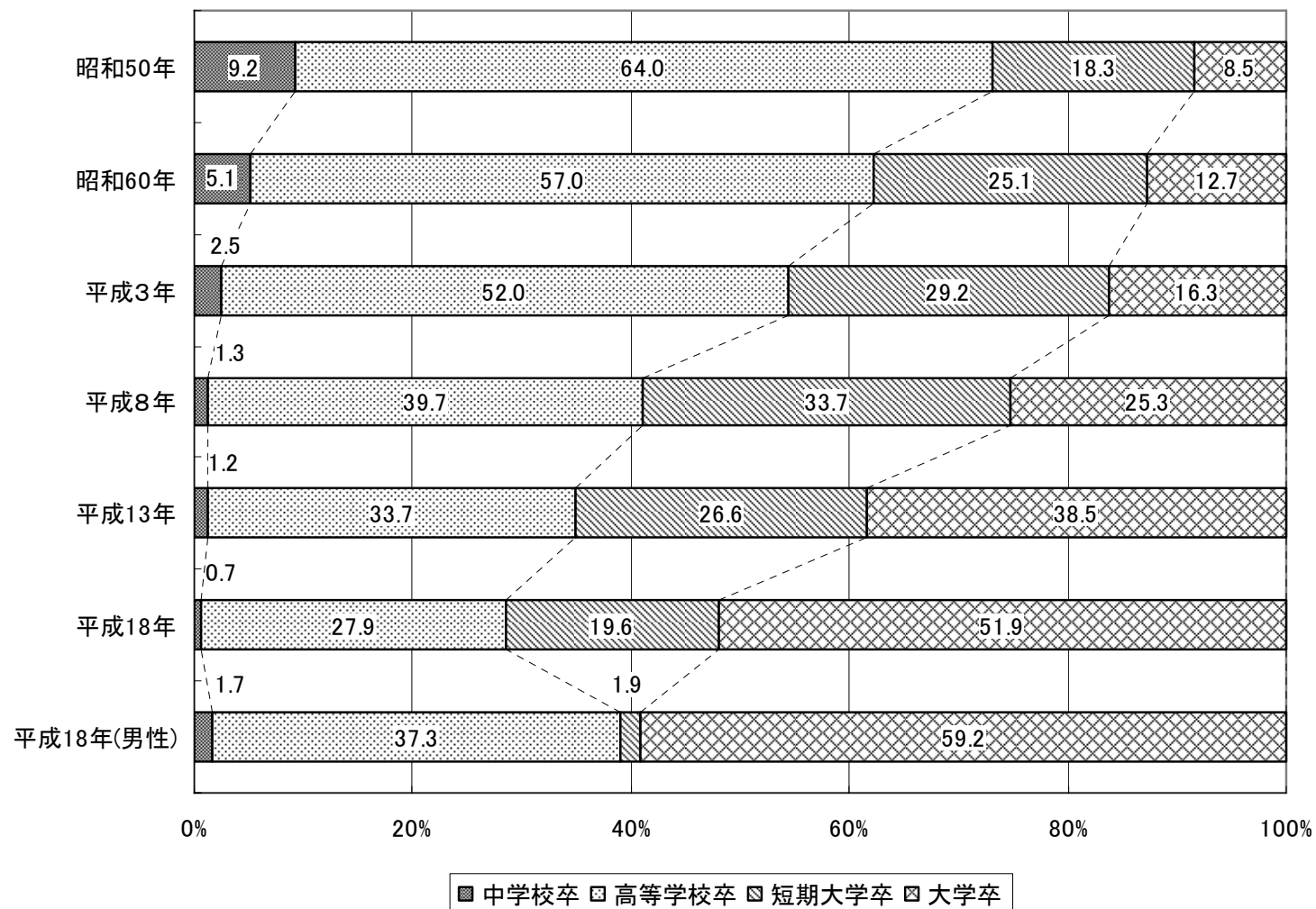
○ 勤続10年以上の女性は3人に1人(33.5%)。平成17年では8.7年で男性との差は4.7年。



資料出所:厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(昭和60、平成7、17年)

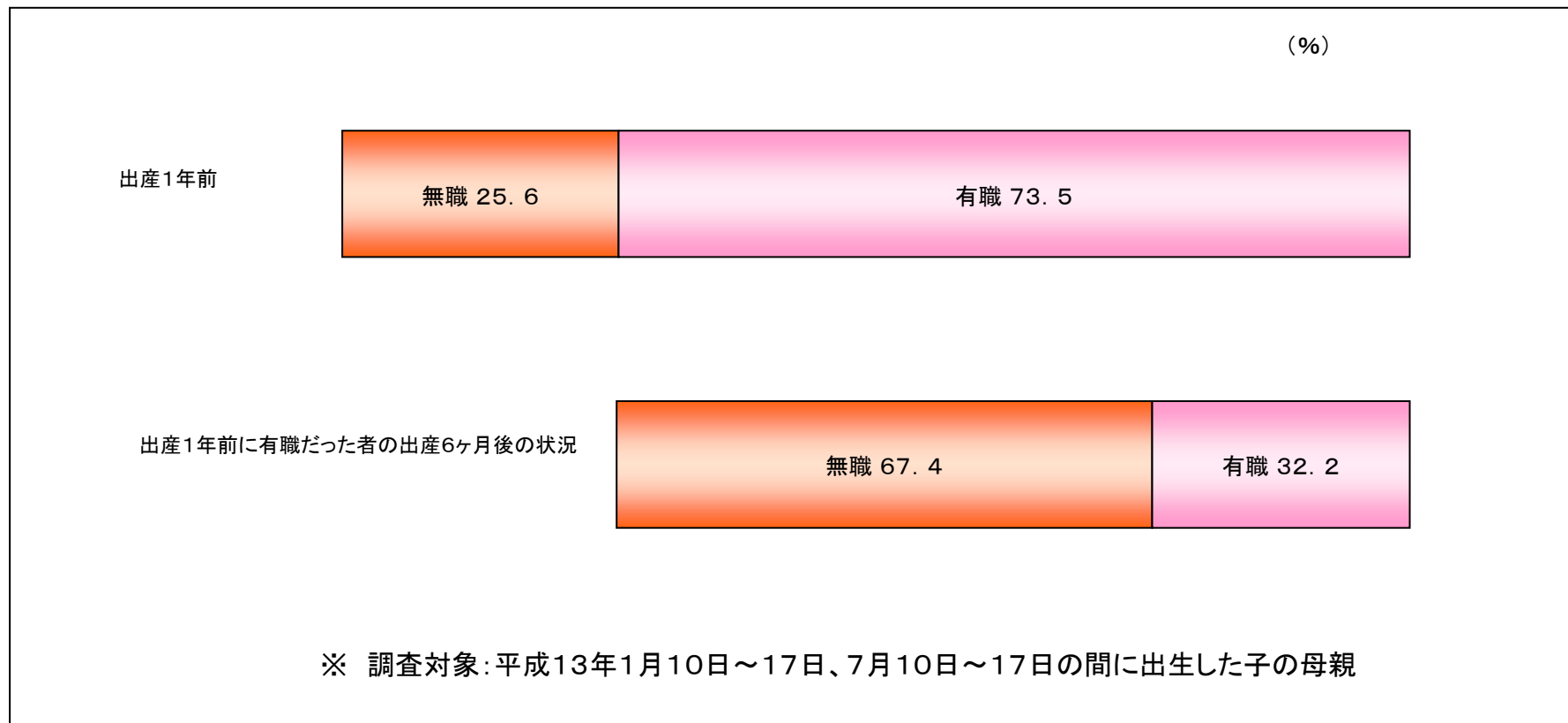
女性新規学卒就職者の学歴別構成

○ 女性の高学歴化が進展している。



出産1年前に有職であった母の出産6か月後の就業状況

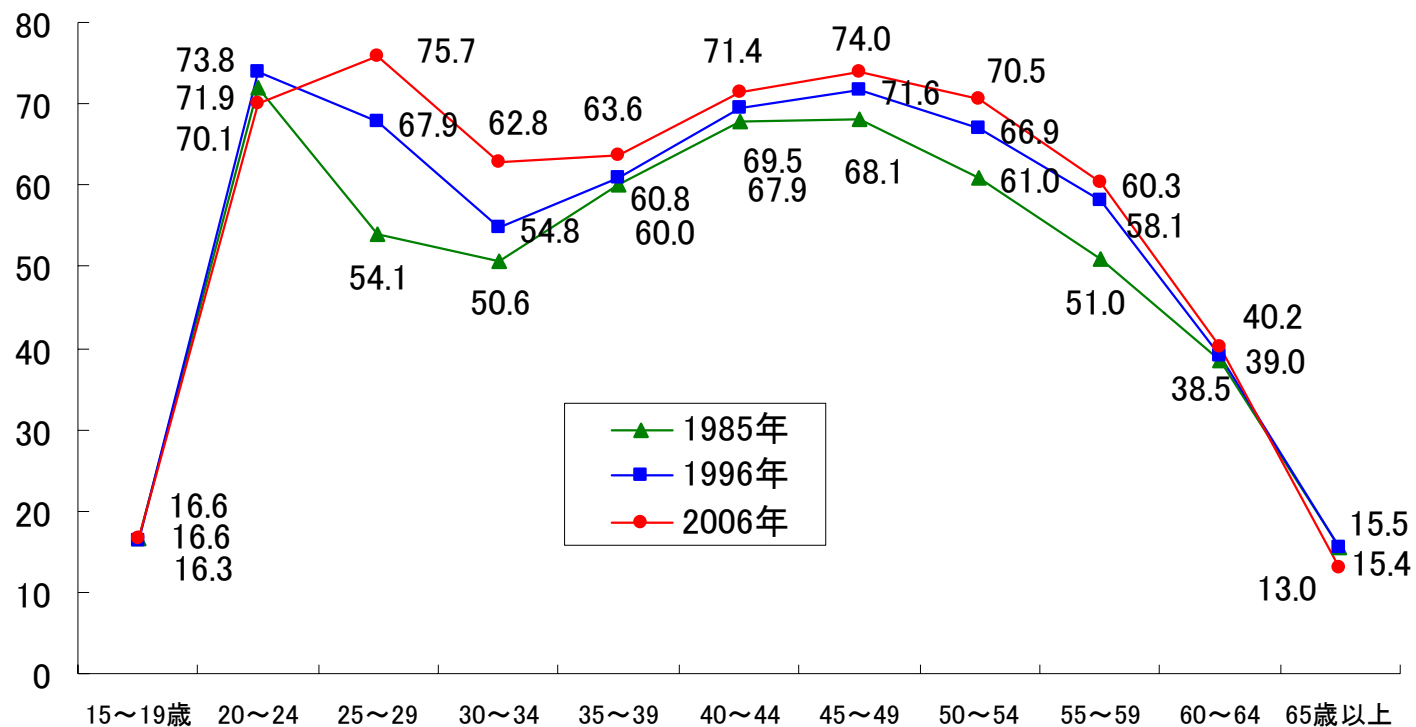
○ 第1子の出生を機に離職したのは7割。



資料出所:厚生労働省「第1回21世紀出生児縦断調査」平成13年度

女性の年齢階級別労働力率の変化

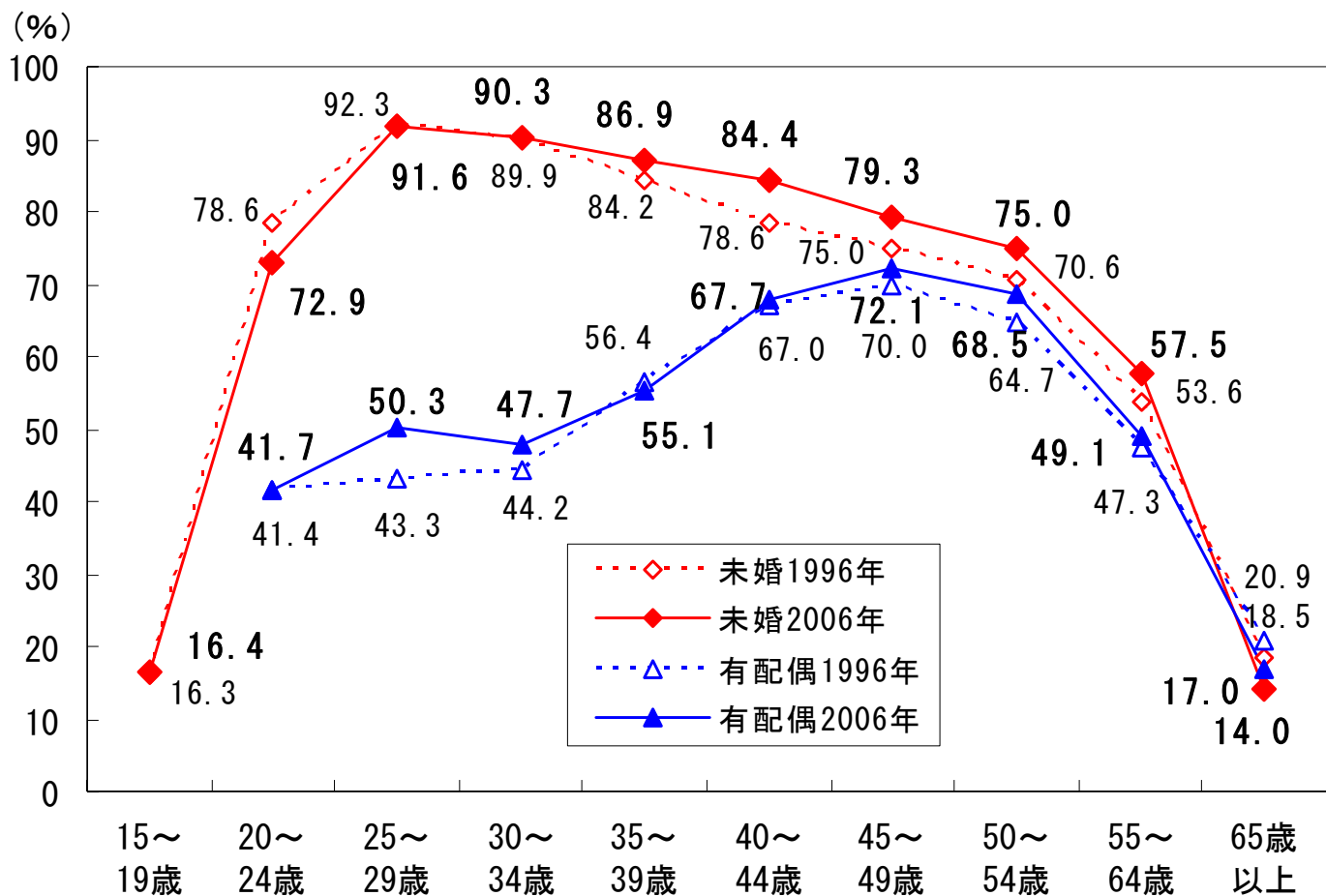
○ M字カーブの底は62.8%と20年前から約12%ポイント上昇



資料出所: 総務省統計局「労働力調査」(1985年、1996年、2006年)

女性の未既婚別年齢階級別労働力率

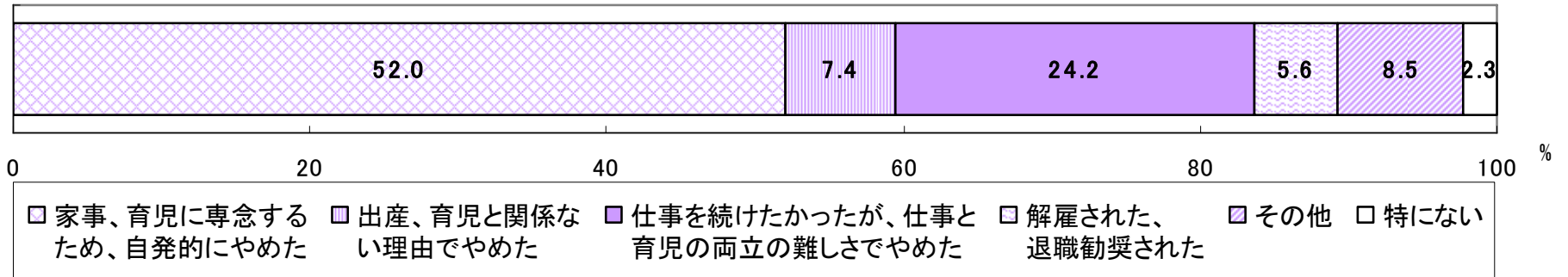
○ 未婚では、30～44歳層で上昇。有配偶では20～34歳層で上昇、35～44歳層、55歳以上の層で低下。



資料出所：総務省統計局「労働力調査」(1996年、2006年)

「出産1年前には雇用者で現在は無職」かつ「就学前の子供がいる女性」が仕事をやめた理由

○「仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立の難しさでやめた」女性は24.2%。



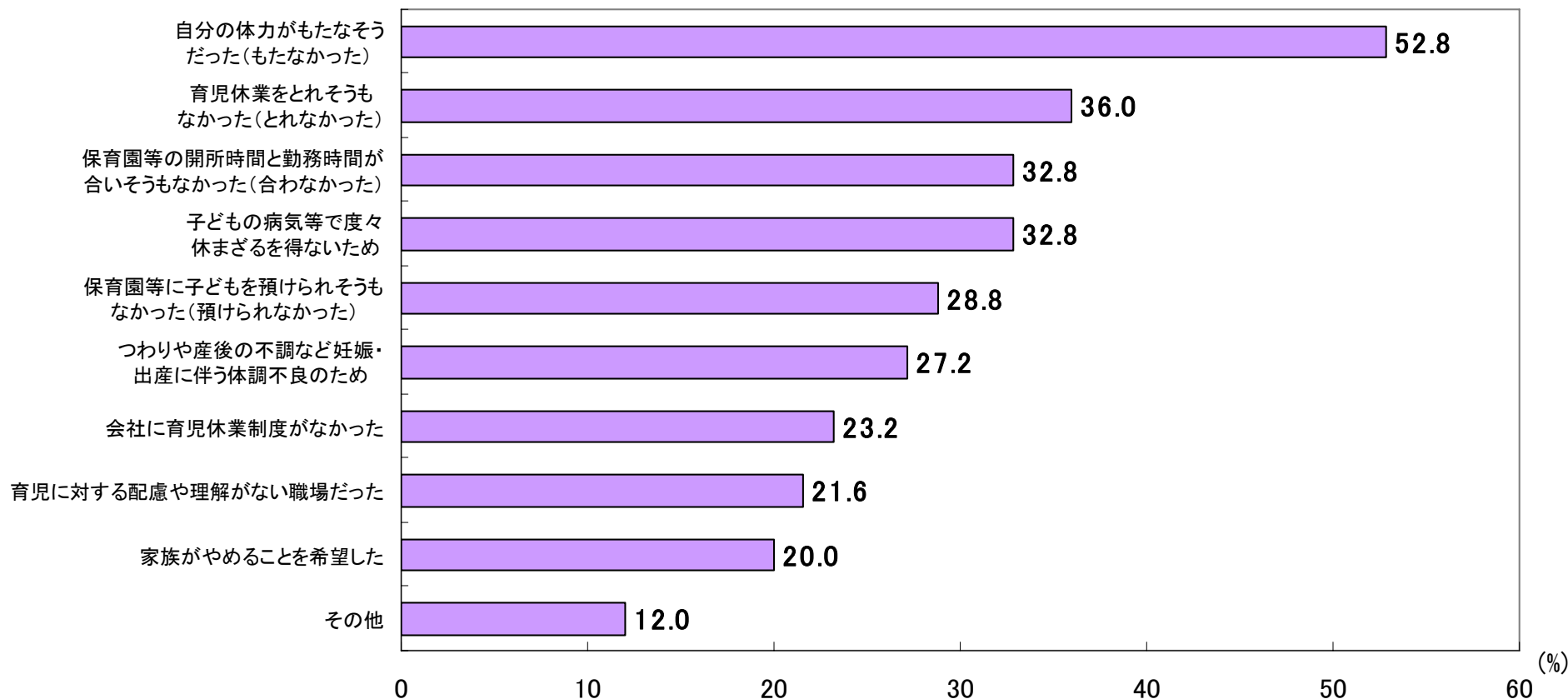
資料出所：日本労働研究機構「育児や介護と仕事の両立に関する調査」(平成15年)

両立が難しかった理由(複数回答)

(「仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立の難しさでやめた」と回答した者)

○主な理由は、体力が持ちそうにない、育児休業が取れそうにない、保育園の開所時間、子どもの病気のため

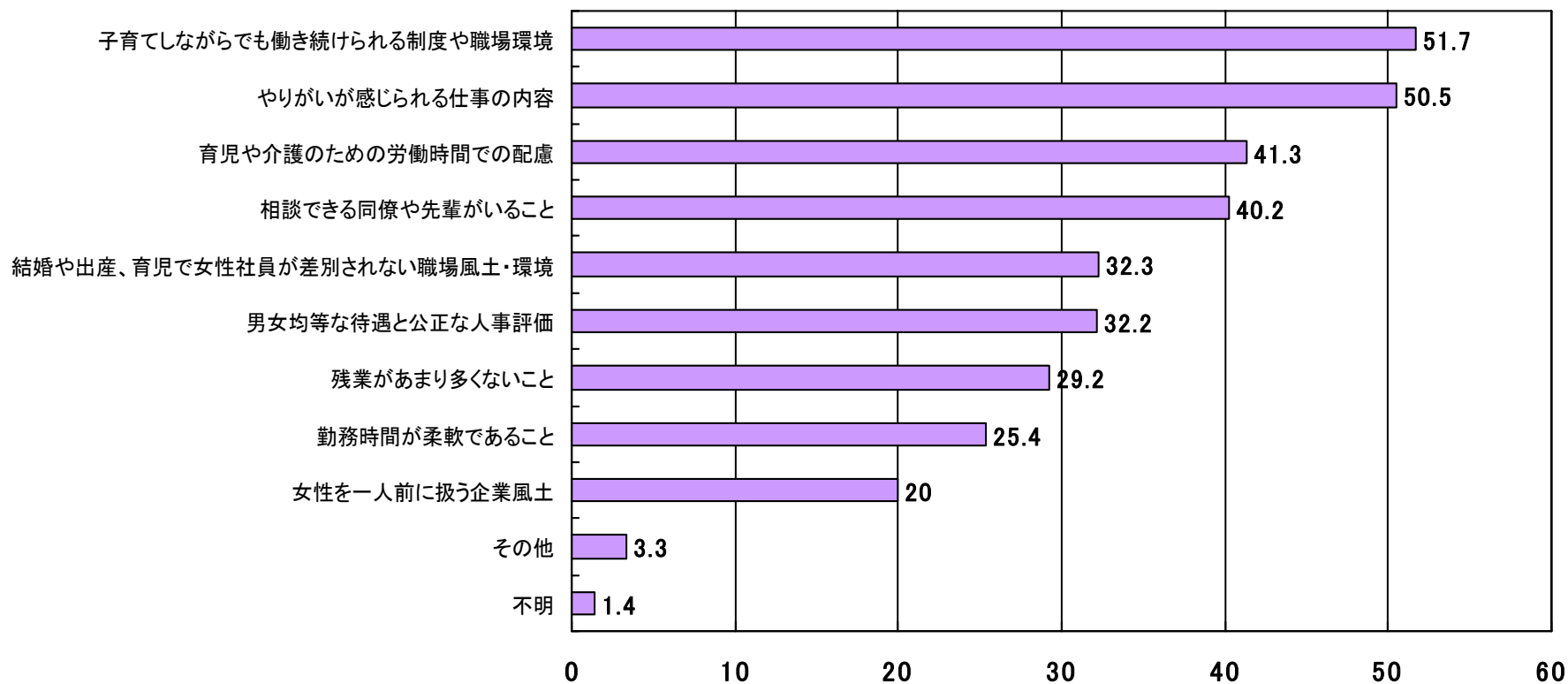
(両立が難しかった理由(M.A.))



資料出所: 日本労働研究機構「育児や介護と仕事の両立に関する調査」(平成15年)

就業継続のために必要なこと、会社に希望すること

○「子育てしながらでも働き続けられる制度や職場環境」「やりがいを感じられる仕事の内容」が必要



資料出所:財団法人21世紀職業財団「女性労働者の処遇等に関する調査」(平成17年)